

## 来期新入社員登場

新入社員の採用は、平成20年4月の河野君以来。新卒の採用は、平成18年4月に入社した太田君以来10年ぶりとなります。河野君の入社以来継続的に地元の専門学校と工業大学に求人をしていたのですが、これまでなかなか採用できませんでした。それが、今年の5月に地元広島工大専門学校建築士専攻科の学生さんが男女合わせて4人も会社訪問に来られ、そのうちの2名が弊社の入社を希望してくれました。そして、選考させていただいた結果「中谷啓太君」を採用する運びとなった次第です。

中谷君は岩国市在住で、小学校から高校までは柔道をやっていた素直な好青年です。建築士の試験が終わった9月中旬からアルバイトに来てもらっていますので、何かでお伺いした折には声をかけてやってください。(啓)



中谷 啓太君  
本社事務所にて

## \*\*\* イベント情報 \*\*\*

### 廿日市店秋のイベント

日程:11月12日(土)・13日(日)

会場:廿日市店

毎度のことながら、お楽しみが盛りだくさんの企画です！

皆様のお越しをお待ちしております。  
詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

お待ち  
しています！



宮本廿日市店店長

## \*\*\* 社内近況 \*\*\*

早いもので、平成28年度も半期が過ぎてしまいました。今年の上半期は比較的落ち着いて(言葉を変えれば「あまり忙しくなかった」)いましたが、下半期は新築工事や大型リフォームがあり、年末までは大工さんの手が取れない状態となっており、現場担当の竹内常務・太田君は毎日バタバタと走り回っている状態です。まずは廿日市店。店長の宮本君は長男の少年野球の世話に休日は全て取られているようで、若いと思っていた彼も、ゆっくり休めないせいか、少々お疲れ気味の様子。太田君は、この秋は実家の稲刈りに頑張っているようで、連休は家族総出で農業に勤しんでいるようです。実家の米作りはこれからも頑張っているそうです。河野君は青年会議所(JC)に今年から入会し、毎晩合会の家を空けているようで、なかなか大変な様子が漏れ伝わってきます。まあ、優先順位を決めて無理のない範囲で頑張ってもらいたいですね！

さて、大竹店。経理担当の河野さん(家内)は、河野大輔家の一番末の子ども幼稚園に行くようになりましたので、河野大輔夫人(清香さん)が入社し仕事を少しずつ後継者に移行するべく、経理の仕事など、まだまだ時間は短いです。次代への準備に取り掛かっています。そして、太極拳の世界を広げていくようです。子育て真っ盛りの本社事務の向井さんは、高校受験を控えている長男が、カーブに熱を上げてしまい、勉強に熱が入らなくて少々お困りの様子です。まあ、日本シリーズが終わったら頑張ってもらいましょう！(この原稿を書いている時は、まだ日本シリーズ前なのでカーブが日本一になっているか気になります。)常務の竹内君は長男の就職が決まり一安心。相変わらずカーブ観戦は一杯やりつつテレビで観戦するのが一番と言っております。と、その横で、西村大竹店長は「カーブファンならマツダスタジアムで観戦して、もっとお金を使いなさい！」と文句を言い、賑やかな事務所となっています。皆、元気で頑張っています！！報告まで。(啓)

「住いの困った」は ゲインアンハウス 大竹店・廿日市店共に

フリーダイヤル0120-505-375 URL:http://www.geinan-house.co.jp/

最後までお読みいただき有難うございました、次回は1月の予定です。(啓)

\*尚、この「住みいる通信」がご不要の方はご一報願います。送付を停止いたします。

H28.10



GEINAN  
HOUSE

# 住みいる通信



TOTOミュージアム

いや一暑い日が続きますね～なんて思っていたら、あっという間に涼しくなって、布団が恋しい季節となりました。秋と言えば「読書の秋」そして「食欲の秋」ですね！先日、知り合いの方から岩手県直送のサンマを送っていただきました。やはり、新鮮なサンマは美味しかったですね！瀬戸内海の美味しい魚を食べなれていますが、脂ののったサンマは格別ですね！そして秋と言えば「松茸」。年々採れる量も少なくなっているせいか、なかなか私の口には入りにくくなっていますが、今さてきて年はどうですかね？

上の写真は先日行って来た、TOTOミュージアムの写真です。このミュージアムは住宅設備メーカーのTOTOが創立100周年を記念して開設したものです。水まわりの文化や歴史とともに、TOTOのものづくりへの想い、製品の進化について展示を見ながら説明を聞かせていただきました。私が一番印象残ったのは、創業者「大倉和親」が下水道も普及していない時代に「日本にも快適で衛生的な生活文化を普及させたい」という創業の想いと、五代目社長として良品主義を貫いた「江副孫右衛門」の志を綿々と持ち続けている企業風土に触れ、改めて創業の想いの大事さを痛感した次第です。

弊社の創業者の父が休みでも修理の電話がかかってきたら、「困ってるんじゃけえ、行ってあげにや」と出掛けていたことを思い出します。「休みなんじゃけえ無理に電話に出んでも」と思っていた私ですが、この「小さな困った」にコツコツと対応してきたお蔭でお客様が増え、そして今がある訳ですから、これからどのように業態が変わろうとも「小さな困った」に対応し続ける事がゲインアンハウスの未来につながって行くことだと信じています。

大竹店でサービスを担当している里も「はあ、体がえらい・・・」なんて時々弱音を吐いておりますが、体が動く限りいつまでも頑張ってもらいたいと思っておりますし、この企業風土の生き字引として、しっかりと若い者に伝えてもらいたいと願っております。(啓)



河野



## 報告！ ”TOTOミュージアムを視察して”

皆さん良くご存じ、便器やお風呂などの住宅設備メーカーであるTOTOは、1917年に創立されました。まだ下水道が整備されていない時代に、健康で文化的な生活の実現を願い、水洗便器をはじめとする衛生陶器の製造に着手。その後、近代化とともに、水まわりの技術や製品・サービスは目覚ましい進歩を遂げ、私たちの暮らしは、豊かで快適なものへと変わっていきました。このミュージアムは、創業の精神や歴史を正しく理解し、受け継いでいくことが大切と考え、創立100周年記念事業として、開設したものです。その内容を少しばかりご紹介させていただきます。（啓）

### 1) 食器事業

食器事業は、水洗トイレが普及し、1970年にその役割を終えるまで、半世紀にわたってTOTOを支え続けました。それにしても、TOTOが高級食器を作っていたとは知りませんでした。

### 2) 認定遺産

TOTOの製品には、その歴史的価値を「近代化産業遺産」「建築設備技術遺産」「機械遺産」に認定されているものがあります。TOTOミュージアムに所蔵されている戦前に製造された「衛生陶器」と「食器」が2009年に近代化産業遺産に認定されています。2012年に初代ウォシュレットGが、2014年に各種湯水混合栓の一部が、2016年に初代ユニットバスルームが、建築設備技術遺産に認定されています。初代ウォシュレットG（右の写真）は、テレビCMで「お尻だって洗ってほしい」で話題となり、日本人のトイレ習慣を変えたことから、2012年、日本機械遺産にも認定されています。

一般の人でも見学できる施設となっていますので、物づくりに興味のある方は、小倉にお越しの際は見学をお勧めします。

（啓）



高級食器を展示



日本機械遺産に登録された  
初代ウォシュレット

## 木の家を科学する③

### 今回のテーマは 「ヒノキの効用」



ヒノキは、古来より人に親しまれ「貴い木」として愛用されて参りました。利用の最初は、古代人が「火を起こす木」から「ヒノキ」と呼ばれ、現在の「ヒノキ」になったと言われております。

法隆寺や正倉院の建築例にも見られるように、耐久性、美観に優れ、千年かけて成長したヒノキは、伐採後千年経過しても強度等の経時変化がないと言われております。

この様なヒノキには、薬効成分が沢山含まれており、特にヒノキオイル、ヒノキチオール、フィトンチッド、等の成分は、あまりにも有名です。現在、水虫の治療薬、育毛剤、歯槽膿漏の予防等多くの方で利用されており、また、ヒノキをはじめ植物が発散するフィトンチッドの効用は、精神安定、殺菌殺虫効果等があることは、すでに学会で発表されている通りです。

このように、ヒノキなどを内装材として用いることは上記の効用のみならず、調湿効果もあるのでリフォームの際には是非検討したいものです。

## ”木造住宅耐震補強”の現場から 評点0.27（倒壊する可能性が高い）を評点1.20（倒壊しない）へ

前回は、熊本地震について倒壊の原因など書かせていただきましたが、多くの方が「自分の家は大丈夫だろうか？」と思われるようで、以後耐震診断のご依頼が増えています。また、私たちがリフォームさせていただくお宅の耐震診断を積極的に行い、リフォームに併せて耐震補強を行っています。そんな現場の耐震補強例をご紹介します。（啓）

### <建物概要>

構造：木造軸組工法  
建築年：1987年（新耐震基準）  
延べ床面積：152.51m<sup>2</sup>（46.2坪）

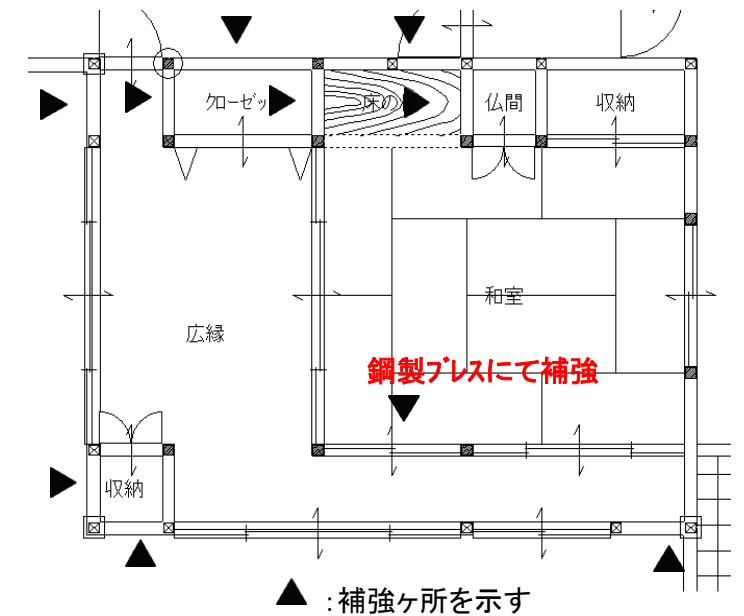
### <耐震診断>

現状の一般診断による評点

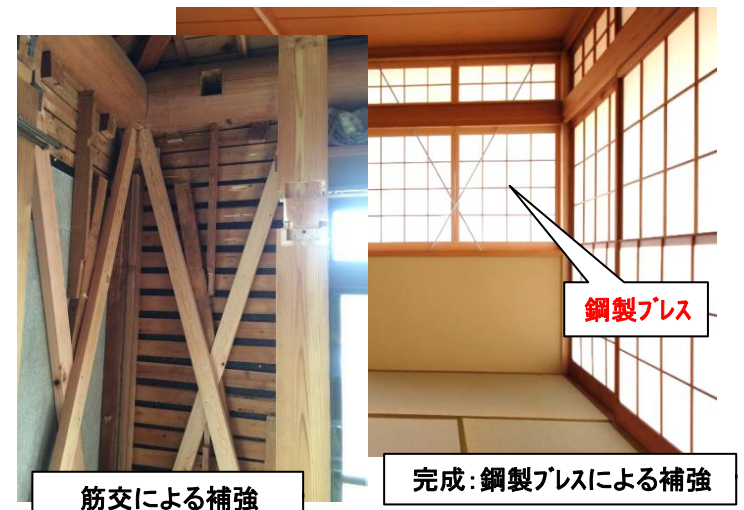
1階X方向：0.27（倒壊する可能性が高い）

1階Y方向：0.37（倒壊する可能性が高い）

上記のように、この建物は1980年以降の新耐震基準で建てられた住宅です。当時の建築基準法で建てられていますが、南面は和広縁があり開口部が多く壁面が少ない構造となっているため、耐力壁の配置バランスが悪く、耐震診断を行うと評点が0.27と非常に低く、倒壊する可能性が高いと言う事が分かりました。



そこで、和室のリフォームに併せて補強計画を立てました。右上図の黒い三角の表示が補強したヶ所となり、筋交や構造用合板等で補強しました。特に、和室の障子部分の補強では、暗くならないように鋼製のプレスで補強しています。（右の写真参照）



筋交による補強

完成：鋼製プレスによる補強

熊本地震の現地を視察して以来、NHKの地震に関する特別番組をよく見るようになりました。多くの研究者が、兆しを知っていながら東日本の震災や熊本地震を予知できなかったことに反省し、努力されている事を知りました。私たちも、いずれ起こると分かっている東南海地震に向けて1棟でも倒壊を防ぐ努力をしなくてはと思います。そのためにも、耐震診断をお勧めします。（啓）





